

2019年
8月3日
読売新聞
朝刊

来年4月から小学校で「プログラミング教育」が必修化されるのに備え、文部科学省など3省は、希望する学校に民間企業の講師を派遣して特別授業を開催するなど支援事業を実施している。文科省などは今年9月の「プログラミング教育推進月間」を前に、公開授業を実施した。

「よく似たぬいぐるみを入工知能(AI)は、見分けられるでしょうか」

東京都町田市立町田第三小学校(野末直美校長、474人)で7月、5年生を対象に、AIによる画像認識を体験するプログラミングの先行公開授業が行われた。

発表した女子児童(10)は、家から持って来たディズニーアニメのリスのキャラクター「チップとデール」のぬいぐるみ2体をパソコンのカメラに交互にかざした。2体は姿や色がよく似ており、ひと目では見分けが付きにくい。ぬいぐるみはパソコン画面に

プログラミング教育2020

企業が協力するプログラミング授業案の一例

内容	協力企業
地域課題解決のアプリをデザイン	アップル
地域の魅力発信アプリを開発	ディー・エヌ・エー
スポーツとデータ分析	フューチャー、ライブリッツ
未来の宅配便を考える	佐川急便、ヤマトホールディングス
自動車の未来を考える	トヨタ自動車、日産自動車、ホンダ、ひろしま自動車産学官連携推進会議
未来の家を考える	積水ハウス
郵便局の仕事を考える	日本郵便

映ると、正しい名前が瞬時に表示され、教室が歓声に包まれた。授業はIT大手のグーグルが画像認識ソフトの提供や指導案作りに協力した。テーマは「AIとプログラミング」で、身近な課題を解決しようという、総合的な学習の時間に行われた。児童たちは前回までの授業

授業案づくり 企業が協力

で、AIと画像認識が農家の野菜の選別や、クリーニング店で衣服に応じて値段を表示する自動レジに使われていることを学習した。

全7コマで予定されている授業の3コマ目となったこの日は、それぞれが持ち寄った人形やイラストを画像認識させ、画像に言葉を表示させる

プログラム作りに取り組んだ。国旗を映すと、日本との時差が表示されたり、人形を映すと値段が表示されたりするプログラムを組む児童も。

授業を担当した木村剛基教諭は「児童は楽しみながら取り組んでいたが、プログラミングを行う前の準備に

十分時間を取る必要がある」ともわかった」と話す。プログラミング教育は、コンピュータを指示通りに動かすのに必要な思考力などを身に付けさせるのが狙い。

ただ、文科省が市区町村教委に行った2018年度調査では、教員らの課題として「指導方法の情報が不足している」との回答が75.4%、「適切な教材が不足している」が72.4%だった。「何から手をつけて良いかわからない」は41.0%を占めた。

このため、文科省などが民間の協力を得ての支援に乗り出している。アップルやグーグル、トヨタ自動車などの協力で、動画教材やプログラミングの授業案18を作成。協力企業からの講師派遣や会社見学、動画配信などの希望校を募集し、これまで800校から申し込みがあった。



持ち寄ったおもちゃなどをAIに認識させる児童(7月18日、東京都町田市立町田第三小学校で)＝富田大介撮影